

Try & Challenge

越谷の YES, WE CAN.

白川ひでつぐタウンミーティングに参加して

H25年12月から約3年振りで行われた白川議員単独のタウンミーティングでの質疑の中で印象に残った点について報告する。ひとつは白川議員が触れた、「いじめ」や“虐待”について、年配の参加者が「自分は若い頃、息子に体罰を伴う躰を行ってきたが、成人した息子が父親から厳しく躰けられたことにより、世の中に通用する人間に育ったことを感謝している」との体験事例から、「自分が行った“体罰”と現在世間で見られる“虐待”とは違うのではないか」との発言があった。続いて、親から“体罰”を受けて育った若い世代の参加者から「自分の非行に腹を立てた親から、よく家を閉め出されたが、近所に住むおじさんが家でかくまってくれたので、締め出されても困らなかった」との発言があった。これまであまり発言することがなかった人が自分の人生体験からの勇気ある発言がなされたことに驚いたと同時に、このような場をさらに増やす必要性を感じた。

もう一つは、白川議員が市議会場への国旗掲揚に対して本会議で反対意見を述べたことに対して、消防士として毎日国旗に敬礼して仕事をしている人から、「白川さんとは大概の問題について同じ方の向き見を持っていたが、今回の件ではど

うも見解が違つように思う」という意見が出された。市議会で国旗掲揚を強行に決定した手順とは違つた対応から、意見が違つ中でお互いに討議して合意を図っていくための作法を身に付ける必要性を感じた。

(年金生活者 岡村宣夫)

4地区議員有志の会 第2回市政報告会

2月4日土曜日18時半より、大沢北交流館にて第二回目となる、4地区議員有志8名による市政報告会が行われました。

今回のテーマは、12月議会の目玉政策となった、官製ワーキングプアを防止し、労働条件を守るための「公契約条例」について、議員提出の「核兵器禁止条約を実現させる姿勢で交渉に参加するよう国に求める意見書」について、11月12日土曜日に越谷市議会議場にて開催され、市内の高校・大学生を模擬議員として迎え、市議が答弁者となった「学生模擬議会」について、請願「議場に国旗・市旗を掲揚する件」が採択された後の議会運営委員会について、などが報告され、参加された市民の方々から鋭い質問の数々が飛び交いました。

今回で2度目とはいえ、台本も打ち合わせもなしでの市民の皆様とのやりとりは非常に緊張します。私が担当した学生模擬議会の報告では、「学生はどういう観点から質問しているのか」といった質問をされ、必死に模擬議会の時の記憶を呼び起こし、当時の緊張感まで思



い出し、2倍ドキドキしてしまいましたが、若者の政治参画への意識の高さを来場者の方々にお伝えできていたら幸いです。

4地区の議員と市民の方々に近い距離で接することで、それぞれの地域だけでは見えてこなかった問題点や解決方法が見えてきます。

次回は4月15日土曜日18時半より新方地区センターでの開催を予定しております。皆様とまた関連な論議ができることを楽しみにしています。

(越谷市議会議員 松田典子)

第9回協働フェスタに参加して

1月28日、越谷市中央市民会館で「あなたが主役のまちづくり」を掲げた協働フェスタが開催された。集まったのは、越谷市内の市民活動団体、行政や企業など80団体。趣味のサークルや、子育て支援などの社会貢献ボランティア、国際交流など、様々な展示や体験が行われたが、私たち「埼玉政経セミナー」も、4階展示場にブースを設けて日ごろの活動をアピールした。パネルに活動目標となっているマニフェスト（新しい豊かさ、新しい公共、新しいしくみ）を張り、来場者に見てもらおうと同時に、具体的には何に関心を持っているか、シールアンケートを実施。午前の部に参加した私も、マニフェストを説明したり質問に答えたり、あるいは市政に対する要望を聞いたりしながら、複数回答でシールを貼ってもらった。越谷市長はじめ、様々な人たちがやって来たが、子育てや介護、開かれた議会（ネットでの中継）などにシールが集まり、中には、市民病院のあり方に意見（苦情?）を言う人も。三輪さんが次々と来場者を呼び込んでくれたこともあり、思ったより多くの人がシール張りに参加してくれ、会話しているうちにあっという間に時間が過ぎたが、シールアンケートはコミュニケーション・ツールとして、けっこう適しているかも知れないと感じた。

（越谷在住 軍司）

オール越谷・街宣活動に参加して

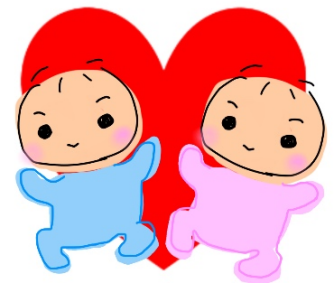
1月14日、オール越谷、新年のご挨拶でのイベントが越谷駅前で行われ、それにチーム白川からボランティアとして参加をさせてもらいました。



（越谷在住 白石）

朝から冷たい風が強く吹き雪もちらつくほど寒い中、午前中は会場の準備をスタッフ皆さんと風で旗やポスターなどが飛ばされながら支度が出来て一安心。午後、会場でイベント。ライブが賑やかに始まり、その中自治みらい2人と女性1人の三人で、通行中の市民にアベノミクスや今の政治や社会問題に関心のある所に、シールを貼る投票をしてもらいました。声を掛けた皆さんは快くシールを手に取り貼り付けてくれました。学生でも今の政治、防災、原発、防衛など幅広く関心を持っていることがわかりました。

以和爲貴



先日「怒れる女子会@越谷」主催で、出生前診断を起点に命の選別をテーマにした車座トークが行われました。様々な立ち位置の人々が椅子を並べたり、車椅子での輪形で懇談です。

障害当事者、当事者家族、施設職員等の支援者、助産師、元看護師、障害者とは直接的な接点のない市民、議員等の多様な参加者が一同に輪になりました。多様性のある参加者がフラットに懇談をする機会はなかなか無いのが現状です。

和む環境で様々な思いを寄せ合う試みをしました。それぞれの課題を抽出しどこまで広げれば、掘り下げれば輪の共通認識が有るのかを探りました。

それは合意形成を取ると云う事です。出生前診断の是非を審判すると云う事ではありせん。誰かの決断をジャッジする為の話し合いでは無いのです。まさに手探りの試みでした。「和とは輪であり話である」「輪は円であり縁である」と感じました。ただ、時間が足りませんでした。様々な立ち位置の人々が立場にとらわれる事なく討議するまでには至りませんでした。この試みは回を重ねて行くつかと思えます。

そして、多様な参加者の共通認識を見つけ出し車座の中心に何があったのかを探りたいと思います。

（辻 純志朗）

認め合う夫婦講座の感想

昨年、11月26日にNPO法人越谷にプレパークをつくる会が主催し、「ほっと越谷」にて開催された講座、「夫と妻のやりとり色々」認め合う夫婦になるためのコツ」にパネラーとして参加した。パネラーは男女各2名で私は障がいを持つ子を持つ夫の立場で妻との関わり合いを話した。現在、理由は様々だが熟年離婚、障がい児を持つ夫婦の離婚などが多いと囁かれていることが背景にあるのだろう。妻とはぶつかり合いが絶えず、暗闇の箱の中で各々がもがき、見つかるのかわからない光を探している状態にいて、認め合っているのではなく依存しあっている状態であることを男女30〜70代の参加者（60代の方が多かったと思う）、20名位の皆様に本音で話が出来たのかと今では思っている。その後は皆様との意見交換会に移った。

一見、妻の悪口を言っていたかと思われるかもしれないが後に感想を伺ったら悪口には聞こえず、むしろ夫婦の悩みや関わり合いを正直に話をしたことで口には出さないが夫婦の数だけそれぞれの悩みや関わり合いがあり、自分たちだけではないと思って頂いたのかと思う。私の中では相手と白か黒だけの関わり合いは紛争が多く起こり、多様な人たちと共生する今、相手への配慮（例えば言葉がけ一つにも気を遣うなど）や気づき素直に寝る心があればよいのだらうと考えるが、そのような漢になるのはいつの日になることやら、道のりは長い。

（平方在住 小口 高寛）

